

**第5次豊能町地域福祉計画・第5次豊能町地域福祉活動計画・第3次豊能町自殺対策計画(案)の
パブリックコメント結果及び町・社会福祉協議会の考え方**

＜ 意見提出者数 2名 ・ 意見総数 9件 ＞

No.	ページ	章・節等	ご意見・ご提言等の要旨	町・社会福祉協議会の考え方	対応
1	3	<p>1 総論 第1章 計画策定にあたって 2. 域福祉に関する国の動向 (4)地域包括ケアシステムの深化と予防の推進</p>	<p>1) 2 行目～『地域包括ケアシステムのさらなる「深化」が求められています』と記載されていることについて。 『豊能町高齢者福祉計画及び介護保険事業計画』は、『豊能町総合まちづくり計画』及び『豊能町地域福祉計画』を上位計画とし、その方針に沿って策定されるものとなります。 「豊能町高齢者福祉計画及び介護保険事業計画」では、「5つの構成要素」のイメージ図を掲載されていますが、その解説と地域包括ケアシステムの姿図の掲載を国の動向として検討ください。</p> <p>2) 5 行目～：「『共生社会の実現を推進するための認知症基本法』が施行されました」と記載されていることについて これも国の動向を掲載されているならば、本計画に基本的施策 8 項目の内容を示されては如何ですか。 また、専門医との連携図とか、従来の施策・項目を文言で掲載するよりはひと目で理解できます。 *1)・2) は、「地域共生社会」の実現が大目標の取り組みにされています。検討をお願いします。</p>	<p>地域福祉計画は、地域福祉分野に関する各計画の上位計画の位置づけであり、それぞれの計画を策定するための指針や目指すべき方向性についての内容となっているため、本計画における各下位計画に関する具体的な施策や内容の記載につきましては、そぐわないものと考えております。</p> <p>今後も、それぞれの計画と整合性を果たし、年齢や障害の有無などに関わらず、多様な人々が互いに支え合い、誰もが自分らしく生きられる社会を目指すために、行政サービスだけでなく、住民一人ひとりが主体的に地域づくりに参加し、「誰一人取り残さない」という理念のもと、暮らしと生きがいを共に創っていく、地域共生社会の構築をさらに目指してまいります。</p>	変更なし

No.	ページ	章・節等	ご意見・ご提言等の要旨	町・社会福祉協議会の考え方	対応
2	22	第2章 地域福祉計画を取り巻く現状と課題 1. 統計データから見る町の状況 ⑨その他の福祉人材	「認知症サポーター」3,109人おられますが、情報伝達とか、普段からどのようにされているのか？	認知症サポーターは、認知症について正しく理解し、認知症になっても慣れ親しんだ地域でその人らしく生活できるようご本人やその家族をあたたく見守る地域の「応援者」です。 随時認知症についての勉強会やフォローアップ研修を行うとともに、必要な情報提供を行っております。	変更なし
3	49	Ⅱ地域福祉計画 第1章 計画の基本的な考え方 4. 基本目標	基本目標2 本町は、自治会や民生委員、・・・・は、民生委員児童委員に訂正。	<u>民生委員・児童委員</u> に訂正いたします。	変更あり
4	81	Ⅲ地域福祉活動計画 第3章 地区別アクションプラン 2. 具体的な取り組み ■吉川・ときわ台地区	地域福祉を支える人づくりの最下段、民生委員だけでは・・・・は、民生委員児童委員に訂正。	<u>民生委員・児童委員</u> に訂正いたします。	変更あり
5	89 及び 97	Ⅲ地域福祉活動計画 第3章 地区別アクションプラン 2. 具体的な取り組み ■光風台地区 ■希望ヶ丘地区	【地域の主な福祉課題（・・・・）】 1行目 豊能町全体を地域として・・・・ " 地域として自治会の区域・・・・ * 地域と地区の区別が、地域福祉のなかで、地区別の話になるためか。	P89は「豊能町全体を地域としてとらえている人」と書かれ、P97は「地域として自治会の区域をイメージする人」と書かれています。 表現を統一するために、P97につきましては「 <u>自治会の区域を地域としてとらえている人</u> 」に変更させていただきます。	変更あり

No.	ページ	章・節等	ご意見・ご提言等の要旨	町・社会福祉協議会の考え方	対応
6	128	V資料編 5.用語解説	「地域」の解説を入れてはどうか	<p>「地域」は文脈によっては地理的な範囲を指す場合もあれば、心理的なつながりを指し場合もあり、様々な意味合いを持ちます。</p> <p>しかしながら、地域福祉計画においては、単なる「場所」ではなく、そこでの「つながり」や「支え合いの仕組み」そのものを指しています。そこで、 <u>地域（ちいき）</u> <u>本計画における「地域」とは、行政区画や小学校区と言った地理的な範囲を指すだけでなく、そこに暮らし、互いに関心を持ち、助け合い、支え合っていくための「つながりの場」を意味します。住民一人ひとりが安心して自分らしく暮らせるよう、住民、ボランティア、福祉関係者などがともに活動し、課題を解決していくための基盤となるもの。</u> <u>を用語解説に記載させていただきます。</u></p>	変更あり
7	1	1 総論 第1章 計画策定にあたって 1. 地域福祉とは	<p>「介護」と「子育て」を・・・だけが「地域福祉」ではありません。</p> <p>「地域福祉とは、地域住民が互いに支え合い、行政や専門機関と協力して、地域全体で取り組む活動や仕組みのことです。地域福祉は、住民同士の支え合いと行政サービスの連携により、地域で福祉課題を解決する仕組みです。地域福祉の推進には、住民の主体的な参加が不可欠です。」 この解釈が、理解しやすいと思います。ご検討ください。</p>	<p>「<u>地域福祉</u>とは、それぞれの地域において、そこに住む住民が安心して暮らせるよう、<u>地域住民や団体、事業者、社会福祉協議会、行政などのあらゆる関係者が互いに協力し、地域全体で福祉課題の解決に取り組むこと</u>です。 <u>自分自身や家族でできることは自ら行う「自助」、自分だけでは解決できないことは近隣住民等の助け合いで解決する「互助」、介護保険制度など制度化された相互扶助で解決する「共助」、行政や社会福祉協議会などが行うサービスを活用して解決を図る「公助」を重層的に組み合わせ、住民と行政等が「協働」することが重要です。</u> こうした取り組みを支えるのは、住民一人ひ</p>	変更あり

No.	ページ	章・節等	ご意見・ご提言等の要旨	町・社会福祉協議会の考え方	対応
				<p>とりの「自分たちの町をよくしたい」という主体的な参加です。住民同士の温かな支え合いと行政サービスがしっかり連携することで「誰もが自分らしく、住み慣れた地域で、安心して暮らせるまち」をみんなで一緒に作っていきましょう。</p> <p>という表記に変更させていただきます。</p>	
8	79～	Ⅲ地域福祉活動計画 第3章 地区別アクションプラン 2. 具体的な取り組み	<p>具体的な取り組みでの感想！（全体的に）</p> <p>1：「地区自慢・よいところ」と「地区の主な福祉課題（●・○）」で、出来ているが出来ていない。事項数件あり。</p> <p>2：「具体的な取り組み」を絞込み、現状と課題にまとめ「地区の目標」へ。（つくる・増やす・取り組む・育成する・等々から定め、次期へ）4次から続いて「あいさつ・声かけ」になっている。</p> <p>* 沢山の「具体的な取り組み」！大変と感ぜます。進め方・アクションの仕方は如何でしょうか。</p>	<p>1につきまして、「●」はアンケートより抽出したもの、「○」はワークショップで出された課題となります。アンケートは幅広い世代の方が感じられる課題で、ワークショップは普段から地域活動に関わっている方が感じる課題となりますので正反対の考えに至る場合もあるかと思っておりますがご理解ください。</p> <p>内容の修正はありませんが、●を□に変更いたします。</p> <p>2につきまして、第4次地域福祉活動計画の地区別アクションプランから続いて「あいさつ・声かけ」が多く挙げられています。地域福祉活動を実践される方が、お住まいの地域を見た時、自らが「あいさつ・声かけ」することでつながりができ、活動をする上では重要であると感じておられると考えます。</p> <p>後段につきましては、地区別のワークショップでは、「どんな活動がしたいか」「どんな活動ができるか」を話し合いました。その中で個々に考えられる活動の幅広さを感じています。未来に向かって活動したいと考えられる参加者のご意見を尊重した取り組みになっておりますことをご理解ください。</p>	変更あり
9	77～	Ⅲ地域福祉活動計画 第3章 地区別アクションプラン	<p>地区別アクションプランの作成は、福祉活動の担い手団体がそれぞれに検討してその結果を全体会議で決めていくというプロセスが必要ではと思います。</p>	<p>地域福祉は、一部の人のものではなく、地域で生活する中で私たち一人ひとりにとってとても身近なものです。</p> <p>住み慣れた地域で自分らしく生活ができるよ</p>	変更なし

No.	ページ	章・節等	ご意見・ご提言等の要旨	町・社会福祉協議会の考え方	対応
			<ul style="list-style-type: none"> ・提案1 自治会、福祉委員会、民生委員児童委員協議会、老人クラブなどの福祉活動担い手団体毎に意見をまとめるプロセス ・提案2 各団体の代表者会議で地区別アクションプランを決定するプロセス ・提案3 5ヵ年計画計画でありますので、福祉活動の担い手団体毎に毎年振り返り、次年度のメンバーに引き継いでいくように進めるプロセス ・提案4 一般住民の声をアンケート調査で行っていますが、さらに多くの声を聞くために、福祉活動の担い手団体に橋わたししてもらうプロセス 	<p>う、生活している地域(地区福祉委員会の圏域)の強みや課題を話し合い、地区ごとの行動目標を一緒に考えることを目的に地区別懇談会を実施しました。</p> <p>地区別懇談会開催にあたり、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会福祉協議会広報紙(全戸配布)に掲載 ○社会福祉協議会ホームページで周知 ○民生委員児童委員、町内6地区の地区福祉委員に戸別配布 <p>で案内・周知を行いました。</p> <p>それぞれの地区で活発なご意見をいただき、地区別アクションプランを作成いたしました。が、残念ながらワークショップの参加者が少ない地域もあったことから、今後にご提案いただいた内容も含め、インスタグラムなども活用し、幅広い年代の方にご参加いただけるよう努めてまいります。</p> <p>また、提案4につきましては、住民アンケートと合わせ、地域福祉に関わる団体の皆さまにも、地域活動の活性化や地域住民をさせるネットワーク構築に向けてアンケートを実施し、計画に反映させていただいています。</p>	